

## 春のお彼岸法要のお知らせ

日時… 三月 十五日(日)

春のお彼岸は、昼と夜の長さが等しくなる春分の日を中心に営まれる仏事です。「彼岸」とは「向こう岸」という意味であり、迷いの世界である此岸から、さとりの世界へと至ることを表す言葉として用いられてきました。一般には、「彼岸に渡るために修行する期間」として理解されることもあります。浄土真宗ではその意味を少し異なる形で受けとめます。

日々の生活の中で、私たちは忙しさを思いにとらわれ、自分中心の見方に閉じこもりがちです。お彼岸のご縁は、そのような私自身のあり方を見つめ直し、今この身がどのようなはたらきによって支えられているのかに気づかされる大切な機会となります。

お彼岸は、私たちにとって、あらためて仏法に耳を傾ける大切なご縁です。このご縁を通して、ありのままの私をそのまま受けとめ、はたらかし続けてくださっている阿弥陀さまの願いに、静かに心を向けてみたいと思います。



## キャンプ・ルンビニのお知らせ

今年の夏もワサガビーチにあるコテージにて、恒例仏教サマーキャンプが行われます。

日時…七月二十六日(日)より八月一日(土)

八歳未満のお子さまは、三十一日(金)の一日体験キャンプとして参加いただけます。



昨年のキャンプの様子

詳しくは英語版ニュースレターにて

## ダーナ奨学金のお知らせ

トロント本願寺ダーナ奨学金委員会では、対象となる卒業予定の学生の皆さまからの応募を募集しております。

### 応募資格

初めて応募される方で、浄土真宗本願寺派カナダ東部地区の寺院・教会の門信徒、またはその子弟・孫であり、大学・カレッジ・専門学校などの認可された高等教育機関に進学予定の方。

詳しくは英語版ニュースレターにて

## 青少年国際研修団のお知らせ

旅行期間… 六月二十八日～七月九日

参加費… カナダドル千ドル＋ 航空券代

### 応募資格

- ✓ 浄土真宗の門信徒
- ✓ 高校卒業以上～二十四歳まで
- ✓ 心身ともに健康であること

申込締切…二〇二六年三月二十日(金)

この研修旅行は、本山・本願寺の支援のもと実施される特別な教育プログラムです。北米、ハワイ、カナダ、南米教区の若い浄土真宗門信徒が参加し、日本文化に触れながら、仏教への学びを深める貴重な機会となります。旅行中は本願寺をはじめ、親鸞聖人ゆかりの地を訪問し、広島での平和学習プログラムにも参加します。また、世界各地から集まる同世代の法友たちと交流する機会もあります。ツアーに関するお問い合わせは、今年度引率責任者(橋本)までご連絡ください。

詳しくは英語版ニュースレターにて



またこの取り組みは、寺院の長期的な持続可能性にもつながり、法を聞き、コミュニケーションを育み、その教えを次の世代へと伝えていく歩みを支えるものでもあります。そして同時に、私たちの思いを超えたはたらしきによって支えられているのちであることへの気づきを、より一層深めていく契機ともなるでしょう。

合掌

トロント本願寺 理事会

## 二〇二六年 寺院会費について

寺院会員の皆さまへ大切なお知らせを申し上げます。参拝者数やファンドレイジングは少しずつ回復してきているものの、残念ながら本年もご寄付および会費収入は目標に届きませんでした。また本年度はカナダ開教区からの年次分担金も、同様に諸経費の高騰を受け、例年より大きく引き上げられました。

これらの状況を踏まえ、誠に心苦しい限りではありますがありますが、以下の通り会費を改定させていただきますこととなりました。

- ・寺院会費 百八十ドル
- ・ニュースレターのみ購読料 七十ドル

この決定は慎重に検討を重ねた上でのものであり、日頃より寺院を支えてくださっている皆さまへの深い感謝の思いとともにお伝えするものです。皆さま一人ひとりのご支援が、寺院の運営を支え、地域において仏法を伝え続ける力となっております。

申込については英語版のニュースレターの申込書にご記入のうえ、事務所までご提出ください。名誉会員の方につきましても、記録を最新の状態に保つため、毎年申込書のご提出をお願いいたします。名誉会員には会費は不要ですが、ご無理のない範囲でのご寄付をいただけましたら幸いです。

## 枕経のお知らせ

ご家族の枕経を検討されている場合は、当寺院の事務所へご連絡いただくようお願いしております。ご希望の時間を調整し、ご一緒に臨終の仏徳讃嘆のお勤め、もしくは、故人を偲びながら、ご家族の皆さんとお勤めをさせていただきます。当寺院に事前にご連絡いただくことにより、ご家族の質問への対応や必要な情報を提供することが可能となります。

トロント本願寺 理事会

## ボランティアの皆様へ

寺院内外に問わず、トロント本願寺の護持発展に対して、ご尽力くださるすべての方々に感謝を申し上げます。合掌

## モミジでの定例法要

(第2木曜日10時半～)

※昨年より午前中に変更



## 祥月法要のお知らせ

祥月法要とは、祥月命日(故人が往生された月のご命日)をご縁として仏法に遇い、阿弥陀さまの仏徳を讃嘆し、報謝の思いでお勤めする法要です。

日時… 三月 一日(日)

四月 五日(日)

(日本語…午前十時四十五分から)

(英語…午前十一時から)



※英語法要のみオンライン配信

オンライン(ズーム)での参拝を希望される方は、その旨を寺院事務所までお知らせください。

どうぞ祥月でない方も皆様ご参拝下さい。

※日本語の時間を変更しました。

法要後には地下のソーシャルホールにてお茶を飲みながら参加者同士の交流を楽しんでいただければと思います。

なお、四月五日(日)祥月法要後にはお寺の日本舞踊グループのファンドレイジングイベントとしてお弁当の販売があります。

こちらにもご協力いただけると幸いです。



# 佛心

今月の正信偈　わたしを超えるもの



【原文】  
帰命無量寿如来  
南無不可思議光

【現代語訳】

限りない命の如来に帰命し、思いはかることのできない光の如来に帰依したてまつる。

今月より、いよいよ『正信偈』の本文を読み進めてまいります。最初に取り上げるのは、多くの方にとっても親しみのある冒頭の二行です。これらの二行は、親鸞聖人の信心の告白として受け取ることができると同時に、『正信偈』全体のこころを表しているお言葉でもあります。

この文章を書いている今、ミラノ・コルティナ冬季オリンピックが開催されています。世界中のアスリートたちの素晴らしい活躍を日々目にするのは、大きな喜びです。私は子どもの頃からスポーツが好きで、日本では野球やバレーボールに親しみ、トロントに来てからはカーリングを楽しんでいます。今でもさまざまなおスポーツを観ることが楽しみの一つです。

二〇二六年三月号

浄土真宗　本願寺派

トロント本願寺

昨年、ブルージュイブがワールドシリーズに進出した際には、トロントの街全体が熱気に包まれました。今年は新たに日本人選手が加わり、シーズンの開幕を心待ちにしている方も多いことでしょう。

このようにスポーツに親しむ生活の中で、プロのアスリートのインタビューを聞いていると、「自分を信じてよかった」という言葉をよく耳にします。アスリートにとって、自分を信じることは、極度のプレッシャーの中で力を発揮し、困難に挑戦していくために欠かせない大切な要素です。日々の努力と自らの成長の実感を通して、少しずつ自信が培われ、その自信が責任を引き受け、失敗を恐れず行動する勇氣となっていくます。

こうした「自分中心」の生き方は、アスリートに限ったものではありません。私たちも日々の人間関係や仕事、家庭生活の中で、「これでよいのだろうか」「自分は十分に責任を果たしているだろうか」と問い続けています。社会は「自分らしく生きること」や「自分を大切にすること」を勧めます。確かにそれらは大切な価値です。しかしその一方で、常に「自分」に頼り、「自分」を支え続けなければならない生き方に、疲れを感じている方も少なくないのではないのでしょうか。

『正信偈』の冒頭にある「無量寿」「不可思議光」というお言葉は、そのような「わたし」を超えた、はるかに大きなはたらきを示しています。

「無量寿」とは、量ることのできないのち、すなわち過去・現在・未来のすべての時間にとわたりはたらくいのちです。この国に移り住んできた私たち、ここで生まれ育った子どもたち、遠い昔に生きたご先祖、そしてこれから生まれてくるいのち、そのすべてが、すでに阿弥陀さまに抱かれているのです。

「不可思議光」とは、私たちの思いを超え、はかり知ることのできない光を意味します。トロントの冬を思い浮かべてみてください。日が短く、夕方五時にはすでに暗くなり始めます。しかしどれほど暗い夜であっても、街のどこかには必ず光があります。

ただし、私たちの知っている光は必ず影を生み出します。自分が光の前に立てば、誰かの光を遮ってしまいます。太陽の光でさえ、地球の半分には闇を残します。

しかし阿弥陀さまの光は、そのようなものではありません。決して遮られることなく、私たちのありのままのすべてを照らし出します。失敗しているときも、心に余裕がないときも、人に優しくできないときでさえも、何ひとつ漏らすことなく照らし続けているのです。

【次頁に続く】